

## ニンジン菌核病の防除対策

### ニンジン菌核病とは

ニンジン菌核病は、気温が15～20℃で湿度が高い場合によく発病する病気です。

葉や葉の付け根部分さらにはニンジン根頭部分に発生し、白色の菌糸や黒色でネズミの糞状の菌核を作りながら、腐敗する症状となります。



### 有孔フィルムを使用する

直径2mm程度の孔が10cm間隔に開いている有孔フィルムは、1～2月の冬期の気温が高い場合、菌核病の発生を少なくします。

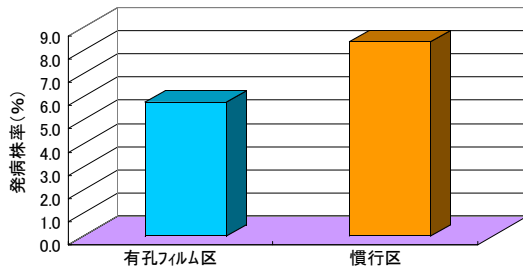


図 被覆フィルムの違いによるニンジン菌核病発病株率の比較(2006年度)

有効フィルム区はPO系多層フィルムに直径2mm程度の孔を格子状に開けたものを使用。慣行区はPO系多層フィルムを使用した。播種は2006年10月25日に「彩誉」を用いて行った。発病調査は、2007年3月20日に行った。

### 薬剤を散布する

ベルクートフロアブル1,000倍  
スミレックス水和剤 1,500倍  
の適期散布は効果が高いです。

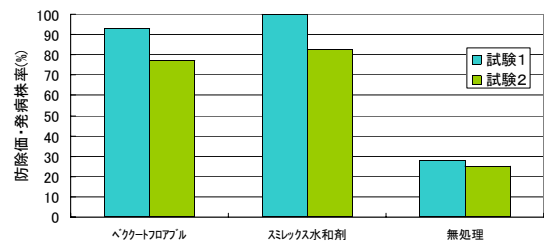


図 ニンジン菌核病に対する薬剤散布効果

試験1は2006年11月9日播種、各薬剤を2007年1月26日、2月2日、2月8日の3回、350L/10a相当量を散布し、発病株調査は3月23日(最終散布42日後)に行った。試験2は2007年11月16日播種、各薬剤を2008年1月24日、30日、2月7日の3回、350L/10a相当量を散布し、発病株調査は2月15日(最終散布8日後)に行った。無処理は発病株率を示した。

### 品種を選ぶ

彩誉は向陽2号に比べ、菌核病の発生が少ない品種です。

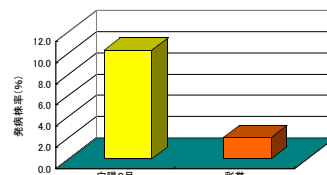


図 ニンジン菌核病に対する品種間差

播種は2007年11月13日に、発病調査は2008年4月4日に行った。間口3mのトンネルで栽培し、被覆はトンネル用多層フィルム(MMK7)ラブリックを使用した。

### 問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

TEL (0883) 24-2217

農業研究所

FAX (0883) 24-2305

病虫害 担当

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>